

和音



京都大原記念病院グループ

KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

No.248

「和音」編集室

京都大原記念病院グループ
〒601-1246

京都市左京区大原井出町

164番地

TEL (075)744-3160

FAX (075)744-3161

Mail kyotoohara-hp@kyotoohara.gr.jp

<https://www.kyotoohara.or.jp>

2020年

5月

MAY

病棟専任配置 今春から必須に

リハビリ支える 管理栄養士



京都大原記念病院を担当する管理栄養士(前列左が梶谷さん)

管理栄養士
梶谷理恵

患者様の社会復帰支援を目的とする回復期リハビリテーション(以下、リハビリ)病棟では、身体状態と栄養状態をセットで考えながらリハビリを行っていくことが近年重要視され、その一部を担う管理栄養士の役割が再認識されています。患者様一人ひとりに合わせた対応が実践されるよう、2020年4月の診療報酬改定では病棟ごとの管理栄養士専任配置が必須となりました。そこで今号では京都大原記念病院(以下、記念病院)の病棟で日々活動する梶谷理恵さんに、過去のさまざまな変化を踏まえた管理栄養士の役割について話を聞きました。

栄養面から効果手助け

患者様ごとの関わり密に

4病棟172床で構成される記念病院の回復期リハビリ病棟には、2018年から各病棟に管理栄養士が専任配置されました。管理栄養士の業務は大きく分けると、毎日の食事を安全に提供するための「給食管理業務」と、患者様の栄養状態を良好に保つための「栄養管理業務」の二つです。病棟配置前は、管理

栄養士2名で業務を行っていたこともあり、患者様一人ひとりに密に関わることはなかなか難しかったのが実情です。

回復期リハビリ病棟では、1日最大3時間の大変ハードなリハビリを行います。また、活動量も大きく変化します。しっかりとリハビリを行うにあたり、その方に見合った栄養が担保されていなければ、体重が減少したり、リハビリの効果が出にくくなったりと、患者様も医療者側も望まない結果につながります。実際、そのような実態を示すデータなども公表されています。専任配置が必須となったのは、こうした背景があってのものと理解しています。

私たちの仕事の中身も変化してきました。例えば、リハビリテーション総合計画書(以下、計画書)に栄養の項目として、栄養状態や、必要栄養量、摂取栄養量などが追加されたことが分かりやすい変



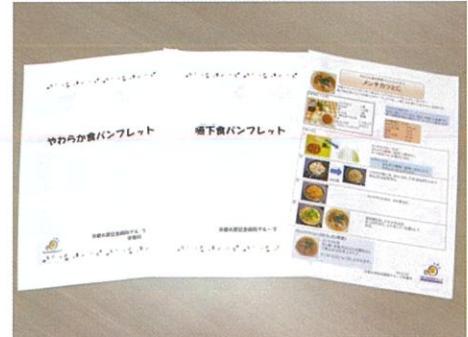
チーム医療を基に計画

カンファにも出席、発言

◎

化です。当院では入院されると、医師を中心としたチームで、検査や評価、患者様との面談を行い、入院中の目標をはじめとする治療などの指針として計画書を策定しますが栄養項目についてもその指針に基づいて検討することが求められます。これを全体計画とし、栄養管理計画書(以下、栄養管理計画)に具体的に必要なエネルギー量などを落とし込み、実際の食事内容に反映していきます。栄養管理計画は、食事量や体重の

ます。他職種との関わりのなかで管理栄養士の視点も変化してきました。カンファレンスなどに参加し、栄養や食事の摂り方(形態など)について発言する機会も増加しました。これまでと比べて、栄養面についての議論が周囲から上がる機会



退院支援に実際に使っているパンフレット。作り方のポイントなどをレシピとともに解説している

も増え、院内での栄養に対する意識も変わってきていると思います。

退院後の生活も提案

嚥下や咀嚼、容体に合わせ



通常の献立より高エネルギーのパワーアップ食

変化等をはじめ、個々の状態に合わせて週1回～月1回の頻度で見直しを行っています。その根拠となるものはチームで共有する情報です。医師・看護師・セラピスト・介護職など患者様に関わるすべてのメンバーで、体調やリハビリの進捗、活動量、食事量、体重の変化などを共有しながら検討を行っています。

まさに「リハビリはチーム医療」と感じ

ただ、一番変わったのは私たち自身の意識かもしれません。以前は栄養という切り口のみで患者様のことを考えていたように思います。もちろん、専門職として、栄養状態をしっかり見ながらプランを考えることは大切ですが、それだけでなく、一人の患者様を支えるチームの一員として、退院後の生活がより良いものになるためにはどうしたら良いかを考えながら日々の業務にあたるようになりました。こうした考え方を管理栄養士間でしっかりと共通認識する目的で、2019年に入院から退院までの流れにおける管理栄養士としての関わりをイメージする取り組みを開始しました。まだ途中段階ですが、管理栄養士としての役割をチームの中でさらに發揮できるようにしていきたいです。

また、私たちの大きな役割の一つに

退院支援があります。入院中はその方の状態に合わせて病院が食事を準備しますが、退院後はそうはいきません。環境に応じてご本人(ご家族など)が準備する必要があります。飲み込みに問題のある方にはどういう食事形態が良いか、かむ力の弱い方が食べやすい食事はどういう食材・調理方法か、再発予防のための食生活支援など、退院後の生活がより良いものになるためのサポートも大切な役割です。その方の状況によって提案の在り方も様々です。私たちも思考を柔軟にし、一人ひとりに寄り添ったより良い提案ができるように、専門職としての幅を広げていきたいと考えています。

栄養科では「私達は、利用者のニーズを尊重し、『食』と『栄養』の専門職として、知識と技術を磨き、健康な生活の実現に貢献します」という理念を掲げています。私たち管理栄養士は、栄養を食べ物で表現できる唯一の存在です。これからも栄養と食事の架け橋としての役割を担い、励んでいきたいと思います。食事や栄養、食べ方のことでお悩みがあれば私たち管理栄養士にもお気軽にご相談ください。

芝桜 細やかなピンクの彩



大原ホーム入口にて

芝桜

細やかなピンクの彩

大原ホーム入口右手の堤防のり面に、数年前に植えた芝桜が今年も見ごろを迎えました。小さなピンク色の花が無数に咲き、高野川堤防を散歩している人たちの細やかな楽しみに。来年も綺麗に咲くよう管理しますので楽しみにしていてください。

(総務部 榎並宏之)

健幸の郷 館長に井端氏

京都大原記念病院グループは4月1日、令和2年度辞令交付式を大原ホーム地域交流スペースで開きました。高齢者共生型まちづくり事業の中核施設としてこのほど完成した「京都大原多世代交流拠点～大原健幸の郷」の館長に井端泰彦・京都府立医科大学元学長が、看護部長に中島美代子・西陣病院元看護部長がそれぞれ着任しました。

今回の異動規模は約160人。新規採用11人、グループ辞令18人、現職員任命48人、学卒新採用56人などの他、大原健幸の郷委嘱辞令が15人に発令されました。

大原健幸の郷は①健康づくり機能(健康増進・介護予防)②地域コミュニティ活性化機能の2点を目的に、国、京都府との連携のもとグループが事業主体となって左京区大原野村町のおおはら雅の郷東側にこのほど完成しました。井端館長は京都地域包括ケア推進機構元理事長でもあります。

中島部長は、病院等の医療機関を中心に、施設・訪問看護などグループ内約280名の看護師を統括し、人材育成など次の展開に向けて組織づくりを行います。また古川玲子・前看護

京都大原記念病院グループ

4月新体制固まる

令和2年度辞令交付式

看護部長に中島氏



辞令交付式の後、さっそく大原健幸の郷を訪れた井端館長



中島部長



古川医師

し京都大原記念病院へ配属されました。



辞令交付式は、新型コロナウイルス感染予防のため、参加者を例年の半分(約50人程)に縮小、また内容を簡素化し行われました。児玉博行代表はウイルスのまん延に言及し「日本は大不況に陥り、人が大幅に余る時代にな

介護部長はケアハウスやまびこ施設長に異動。今後高まるであろう同施設の医療ニーズに応えるべく、また附帯施設である大原健幸の郷に寄与することになります。

他に、古川迪子医師が新しく着任

ります。グループ発展のカギは組織力であり、教育や人材づくりに努めたいと思います。職員の皆さんは動搖することなく、今できることを行ってください」と式辞を述べました。

学卒新人56名入職

京都大原記念病院グループの令和2年度学卒新人入職式が4月1日、地域交流スペースで辞令交付式に引き続いだ行わされました。

今回の学卒新人は看護師14名、准看護師2名、理学療法士15名、作業療法士11

名、言語聴覚士5名、管理栄養士2名、介護福祉士1名、介護職6名の総計56名です。

新人職員は各職種のユニホームに身を包み、先輩職員に拍手で迎えられて入場。職種別に、児玉博行代表から辞令を受け取りました。新型コロナウイルス感染防止のため恒例の記念撮影は行われませんでした。

児玉代表は「当グループを就職先とした皆さんの選択は正しかったと思います。信頼や安心感が口コミで広がって、このよう

な山間部まで患者様が来てくれるようになっています。ある意味サービス業ですから笑顔と挨拶を忘れないこととともに、スキルを習得し患者様やご利用者に喜んでもらえるようになってください。そうすれば組織も発展するし皆さんも成長できます」と激励しました。

56人は研修の後、それぞれの職場で業務に当たります。不慣れな点もあるかと思いますがよろしくお願いします。

パーキンソン患者向けに

リハビリハンドブック

御所南で発行 筋トレなど3部構成

御所南リハビリテーションクリニックでは、このほどパーキンソン病患者様のためのリハビリハンドブックを発行しました。一般的にパーキンソン病の患者様に有効とされる自主トレーニング方法を

「ストレッチ」「筋力トレーニング」「バランストレーニング」の三部構成で具体的に紹介しています。

同院では、1日平均100名程度の患者様が通院されてリハビリテーション（以下、リハビリ）に取り組まれています。脳卒中などをきっかけとする患者様だけでなく、近年、パーキンソン病の患者様も増加し約3割を占めています（2020年3月現在）。

この疾患は、正しい投薬治療に加え、体のコンディション（筋肉・骨・姿勢など）を整え、その時の病状で最大限の動作を可能にするた



ハンドブック発行に携わった御所南クリニックのスタッフ（右端がハ医師）

京都大原記念病院グループウェブサイト
公式Facebookのご案内



ウェブサイト



Facebook



発行されたハンドブック

めにリハビリが大切です。適切に取り組むことで、歩行障害や生活動作の障害を緩和することができますが、一層効果を高めるためには、自主トレーニングも欠かせません。しかし、患者様からは重要性を理解しながらも「何をすればいいか分からない」「何が自分に合っているか分からない」といった声が多く聞こえ、それに応えるべく冊子を制作しました。

監修は同院に在籍する八木彩香医師を始め、LSVT[®]LOUD&BIGの認定資格を有するセラピストらが担当しました。一般的にこの疾患の症状は、運動面だけでなく声や表情などにも現れることから、今後はこれらの分野のトレーニングも取り入れ、使用範囲や内容もアップデートしていく方針です。当面は主に同院での自主トレーニング指導ツールとして運用していきます。この冊子が、パーキンソン病と日々向き合う皆様に、少しでもお役に立つがあればうれしく思います。

ホスピタリティー川柳の入選作

ありがとう してもされても 言い添えて
やさらぎの家 林夏樹

● 2位 ●

思いやり 「ここころがかたちに」なる職場
リハビリテーション部 森木良平
第一声 5秒で決まる 信頼感
リハビリテーション部 濑戸あかり
いつの世も おれいは（令和） 優しいおもてなし
リハビリテーション部 吉田新平
△…その他の入選作品…△

● 3位 ●

気遣いで 変わる関係 笑顔の数
リハビリテーション部 上村比路
おもてなし 笑顔でつなぐ 人と人
リハビリテーション部 江川大地
やばいっす 使うあなたが ヤバいっす
リハビリテーション部 石橋由貴
その笑顔 まわりの人々に ここち良い
やすらぎの家 石田治芳

さりげなく ふと足下の ゴミ拾う
やすらぎの家 増成和哉
伝えよう 心と笑顔 行動で
やすらぎの家 四辻正典
一本の 電話の声の 暖かさ
人事部 上村比路
おもてなし かわってたまるか Aーに 医療連携室 森川純
気配りと 笑顔が素敵な ワンチーム
織田綾子

おもてなし 気配り目配り 思いや
やすらぎの家 塩崎佳菜子
心地よい 空間づくりが 第一步
博寿苑居宅 見原一恵
Aーに 負けるな愛(Aー)の コンタクト
平野アイサービス

さりげなく ふと足下の ゴミ拾う
やすらぎの家 増成和哉
伝えよう 心と笑顔 行動で
やすらぎの家 四辻正典
一本の 電話の声の 暖かさ
人事部 上村比路
おもてなし かわってたまるか Aーに 医療連携室 森川純
気配りと 笑顔が素敵な ワンチーム
織田綾子

おもてなし 気配り目配り 思いや
やすらぎの家 塩崎佳菜子
心地よい 空間づくりが 第一步
博寿苑居宅 見原一恵
Aーに 負けるな愛(Aー)の コンタクト
平野アイサービス



京都大原記念病院グループでは職員一人一人のホスピタリティー向上を目指し、このほど全職員を対象にホスピタリティー川柳を募ったところ、97作の応募がありました。1位～3位の作品と他の入選15作品を紹介します。